

問1 1221年に後鳥羽上皇が鎌倉幕府を倒そうとして兵を挙げた戦いの結果、幕府が朝廷の監視と西日本の統治を強化するために京都に設置した機関はどれですか。 (2023年 宮城県公立入試 類似)

- | | | | |
|----------|--------|-------|----------|
| 1. 京都所司代 | 2. 鎌倉府 | 3. 侍所 | 4. 六波羅探題 |
|----------|--------|-------|----------|

問2 鎌倉時代後半に起きた「元寇」をめぐる歴史的背景とその影響について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2018年 奈良県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|--|--|
| 1. 北条時宗は元軍を退けた後、恩賞として博多湾沿いの石の防壁周辺の土地を、手柄を立てた御家人たちに分け与えた。 | 2. 元軍の再来襲に備えて築かれた石の防壁は、九州沿岸だけでなく、鎌倉の海岸線一帯にも同様の規模で築かれた。 | 3. 八代執権の北条時宗は、フビライ・ハンからの臣下になる要求を拒否し、九州北部の防備を固めて元軍を迎え撃った。 | 4. 元寇による防衛指揮を通じて執権の権力は一時的に衰退し、足利尊氏による新しい武家政治が始まる直接のきっかけとなった。 |
|--|--|--|--|

問3 承久の乱の後、鎌倉幕府は朝廷の監視や西日本（西国）の武士を統制するために、京都に新しい役所を設置しました。この役所の名称として正しいものを選びなさい。 (2022年 山形県公立入試 類似)

- | | | | |
|----------|--------|---------|--------|
| 1. 六波羅探題 | 2. 評定衆 | 3. 鎮西探題 | 4. 問注所 |
|----------|--------|---------|--------|

問4 鎌倉時代に栄西や道元によって広められた禅宗は、厳しい修行や座禅を通じて悟りを得ることを特徴としています。この教えが当時の武士たちの間で高く評価され、受け入れられた理由として最も適切な説明を、次の中から選びなさい。 (2023年 徳島県公立入試 類似)

- | | | | |
|----------------------------------|---|--|--|
| 1. 加持祈祷によって現世での病氣平癒や一族の繁栄を約束したため | 2. 阿弥陀仏の救いを信じて念仏を唱えるだけで救われるという、簡潔な教えだったため | 3. 自らの精神を鍛え、厳しい規律を重んじる姿勢が、当時の武士の気風に合っていたため | 4. 法華經こそが国を救う唯一の教えであると説き、幕府の権威を強固にしたため |
|----------------------------------|---|--|--|

問5 奈良時代の仏教から鎌倉時代の仏教への変遷と僧侶の活動について、その目的や背景を説明した文として正しいものを選択してください。 (2026年 和歌山県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. 行基が国家の許可なく民衆に布教したことは、のちの鎌倉時代に道元が戒律を厳格化する直接のきっかけとなった。 | 2. 国家の保護を受けて戒律を整えた鑑真らの活動に対し、鎌倉時代の道元は個人の修行として座禅による救いを説いた。 | 3. 道元が奈良時代に禅の教えを確立させたことで、平安時代以降の鑑真や行基による民衆救済の活動が活発になった。 | 4. 鑑真が伝えた戒律は武士の間で流行したが、鎌倉時代に入ると行基の影響を受けた道元が念仏を唱えることを重視した。 |
|---|--|---|---|

問6 13世紀、モンゴル帝国の皇帝が国号を「元」と定めて日本に従属を求める使者を送りましたが、当時の鎌倉幕府の執権はこれを拒絶する姿勢を貫きました。この時の執権として正しい人物を選んでください。 (2019年 茨城県公立入試 類似)

- | | | | |
|---------|---------|---------|------------|
| 1. 北条時宗 | 2. 足利尊氏 | 3. 北条政子 | 4. チンギス・ハン |
|---------|---------|---------|------------|

問7 鎌倉時代において、源頼朝により荘園や公領に設置された武士の役職について述べた文として、正しいものはどれですか。この役職は、当初は土地の管理や年貢の徴収を任務としていましたが、次第に徴収した年貢を荘園領主に納めないといった行動をとり、土地そのものの支配を強めていきました。 (2018年 静岡県公立入試 類似)

- | | | | |
|---------------------------|----------------------------------|------------------------------|---------------------------|
| 1. 御家人の所領に関する訴訟を専門に扱った問注所 | 2. 土地の管理や年貢の徴収を行い、のちに土地の支配を強めた地頭 | 3. 執権を補佐し、幕府の政治全般を合議で決定した評定衆 | 4. 軍事・警察の権限を持ち、国ごとに置かれた守護 |
|---------------------------|----------------------------------|------------------------------|---------------------------|

問8 鎌倉時代の御家人の間で行われていた、父親の領地を複数の子に分けて引き継がせる仕組みについて述べた説明として、最も適切なものはどれですか。なお、この仕組みでは、世代を重ねるごとに個々の御家人が持つ領地が小さくなるという特徴がありました。 (2024年 千葉県公立入試 類似)

- | | | | |
|----------------------------------|-----------------------------------|----------------------------------|---------------------------------|
| 1. 領地が細分化されることで、農業の生産効率が劇的に向上した。 | 2. 長男のみがすべてを継ぐことで、一族の領地と勢力が維持された。 | 3. 個々の領地が縮小し、御家人が経済的に困窮する原因となった。 | 4. 幕府が領地を一度回収し、功績のある別の武士へ再分配した。 |
|----------------------------------|-----------------------------------|----------------------------------|---------------------------------|

問9 源平合戦の最終決戦である壇ノ浦の戦いが、その後の日本社会に与えた影響についての説明として、最も適切なものはどれですか。 (2023年 鳥取県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 平氏が滅亡したことで、政治の実権が貴族から武士へと移り、本格的な武家社会へと移行する大きな転換点となった。 | 2. この戦いによって源氏と平氏が和解し、公家と武士が共同で政治を行う公武合体の制度が確立された。 | 3. この戦いに勝利した平氏が、京都を中心にさらなる貴族的な政治を推し進め、古代の天皇中心の政治を強化した。 | 4. 戦いの舞台となった山口県において、毛利氏が強力な戦国大名として台頭し、中国地方全体の統一を成し遂げた。 |
|--|---|--|--|

問10 鎌倉時代の武士の家において一般的であった、親の所領を息子だけでなく娘にも分けて引き継がせる相続の方法を何というか。 (2021年 和歌山県公立入試 類似)

- | | | | |
|--------|---------|---------|---------|
| 1. 惣領制 | 2. 単独相続 | 3. 永代売買 | 4. 分割相続 |
|--------|---------|---------|---------|

問11 鎌倉時代後半、二度にわたる元（モンゴル帝国）の侵攻を退けたあとの社会状況において、生活が苦しくなり土地を質入れたり売却したりした御家人を救済するために、幕府が発令した法令はどれか。 (2024年 山形県公立入試 類似)

- | | | | |
|----------|-----------|----------|-----------|
| 1. 武家諸法度 | 2. 公事方御定書 | 3. 御成敗式目 | 4. 永仁の徳政令 |
|----------|-----------|----------|-----------|

問12 鎌倉幕府の組織において、執権の管理下に置かれた地方組織のうち、京都の警備や西日本の統治を担当し、承久の乱の後に重要性が増した機関の名称を選びなさい。 (2020年 高知県公立入試 類似)

- | | | | |
|-------|--------|----------|-------|
| 1. 侍所 | 2. 問注所 | 3. 六波羅探題 | 4. 政所 |
|-------|--------|----------|-------|

問13 13世紀後半、モンゴル帝国の一部である「元」による二度の襲来（元寇）を受けた日本と、その後の元との関係について述べた記録として、歴史的な事実に基づいた正しい内容はどれか。 (2024年 宮城県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 二度の襲来によって軍事的な緊張は高まったが、その後も民間レベルでの商人の往来は続き、貿易や文化の交流は維持された。 | 2. 元は日本との和平の条件としてキリスト教の布教を要求したため、これを受け入れた日本にポルトガルの宣教師が多数来日した。 | 3. 元の侵攻を退けた日本は、それ以降、中国大陸との一切の交流を断ち切り、ヨーロッパ諸国との大西洋貿易に専念した。 | 4. 日本は元の支配下に入り、長安を都とする帝国内の一州として組み込まれたことで、日本の伝統的な武士社会は崩壊した。 |
|--|---|---|--|